

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成24年3月29日(2012.3.29)

【公表番号】特表2008-515439(P2008-515439A)

【公表日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【年通号数】公開・登録公報2008-019

【出願番号】特願2007-535869(P2007-535869)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 5/00 Z N A B

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 P 37/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年2月9日(2012.2.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0096

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0096】

文献(Schaft 2005, Bonehill 2004)には、抗原コードRNAによるDCの成熟後、エレクトロポレーションによりDCの免疫応答を引き起こす能力が一層大きくなることを示唆している。従って、CD83⁺CCR7⁻成熟DCに対するCD40Lシグナル化の時期を変更することにより(表現型成熟後)、「CD40Lベース工程」(CD83⁻iDCの連続IFN-シグナル化およびCD40Lシグナル化)を変更する方法が開発された。この態様では、DCを最初に「炎症伝達物質」、IFN-およびTNF-、および場合によってPGE₂を培地に加えた後、約12-30時間(好ましくは約18時間)後にCD40L mRNAおよび抗原コードmRNAでエレクトロポレーションを行うことによって表現型の成熟を行った。この新規な方法は、CD83⁺CCR7⁺成熟DCを産生する目的でCD40Lによる成熟後エレクトロポレーションに対して「PME-CD40L」と命名された。エレクトロポレーションの四時間後に回収されワクチンとして処方された細胞は、イン・ビトロ分析法で最大免疫力を伝達することが示された(実施例参照)。さらにもう一つの増加としては、DCにNKT細胞の活性化リガンド、すなわちα-ガラクトシルセラミドでパルスを加え、このエフェクター細胞の個体群を免疫応答に補充することができる。NKT細胞は、TヘルパーおよびT細胞傷害性細胞の両性質を示し、NKT細胞はIFN-を分泌し、CD40Lを提示し、グランザイムBを分泌することができ、後者は標的細胞にアポトーシスを誘導する。従って、NKT細胞の補充によって、追加のNKT細胞CD40L/DCCD40相互作用によりDC機能を高めることができ、またはヘルパーサイトカインを分泌し、および/または標的細胞に対する直接的溶解効果に寄与することによって細胞性免疫応答を増幅することができる。